

当院における緊急連絡網運用に関する検討 ～緊急連絡網と一斉メール併用訓練 を通して(第2報)～

市立八幡浜総合病院 看護部 1) 救急部 2)

○ 宮谷 理恵 1)

川口 久美 1)

越智 元郎 2)

背景

- * 当院は、災害拠点病院であり、地域の中核病院としての役割を担う。
- * 当院の災害医療計画では、災害時の非常参集規定と緊急連絡網を定めている。
- * 2010年には、参集免除についての規定ができ、2011年より緊急連絡の運用訓練を行っている。
- * 今回、前年(2012年)に実施した連絡網運用訓練の経験を生かし規定を変更、**電話による緊急連絡網と職員用災害時一斉メールを別経路で運用**する方針とした。

緊急連絡網について

★**地震以外の災害**に関して、職員の招集(招集待機を含む)が必要な場合に緊急連絡網を運用

時間帯

- * 勤務時間内＝連絡網は運用しない(院内放送等で連絡)
- * 非番の看護職員には、看護部から非常招集等の連絡をする。
- * 看護職員以外の職員には、事務局が出張・休暇などの職員に、把握できる範囲で非常招集等の連絡をする。

2012年緊急連絡網運用訓練の手順 (赤字＝前年度の修正点)

- 1) 連絡網に沿って連絡を進めるが、連絡がつかない場合、その人を飛ばし、次の人に連絡する(その人にも連絡が付かない人があればさらに次の人に)。最後の人は連絡網筆頭者に連絡をする。
- 2) 職員は同じ連絡網上にある他の職員の電話番号を把握しておくこととする。
- 3) 連絡網には携帯電話、固定電話など、複数の電話番号を掲載することを推奨する。
- 4) 2012年度から災害時一斉メールを併用
 - 2012年：一斉メールを受け取ったら緊急電話連絡網で連絡。
 - 2013年：一斉メール受信後も、連絡網下方への連絡は電話連絡受信後。

目的

緊急連絡網(電話)と一斉メールを別経路で運用した新しい手順)で招集訓練を行い、その効果と今後の課題を抽出した。

*一斉メール受信にかかわらず、電話連絡を受けた後に下方へ電話

方法 ①

1) 訓練日:2013年6月5日(水)19時30分

*訓練日時は予告せず、訓練を実施した。

(訓練日時は、事務局長のみ認知)

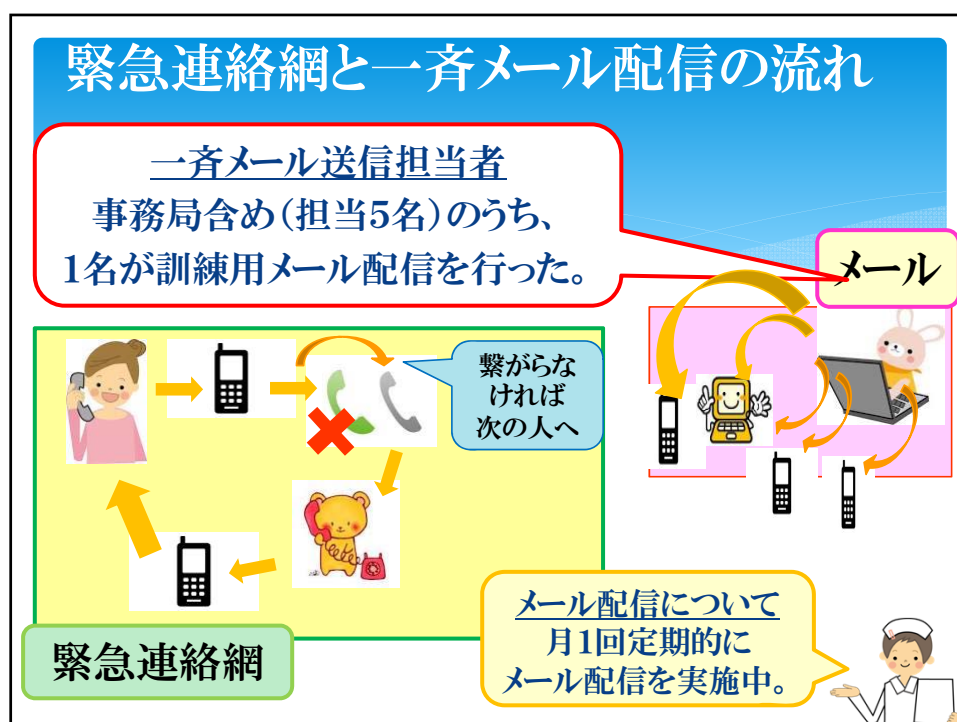
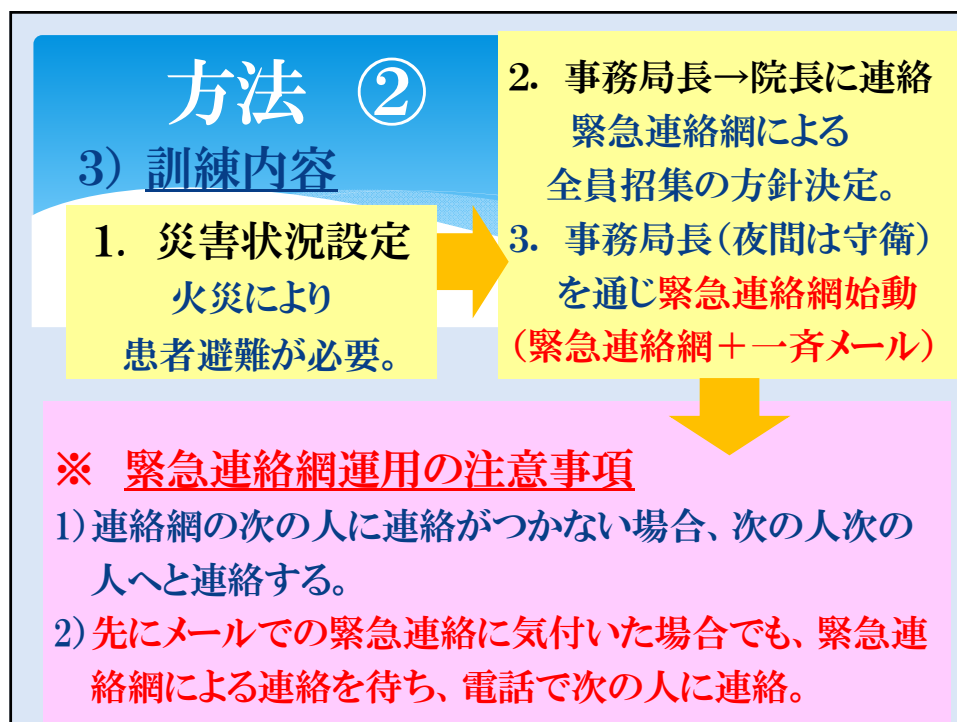
*事前に緊急連絡網の確認とメール配信サービスの登録を勧めた。

2) 調査対象

非常勤・委託を除く全職員221名

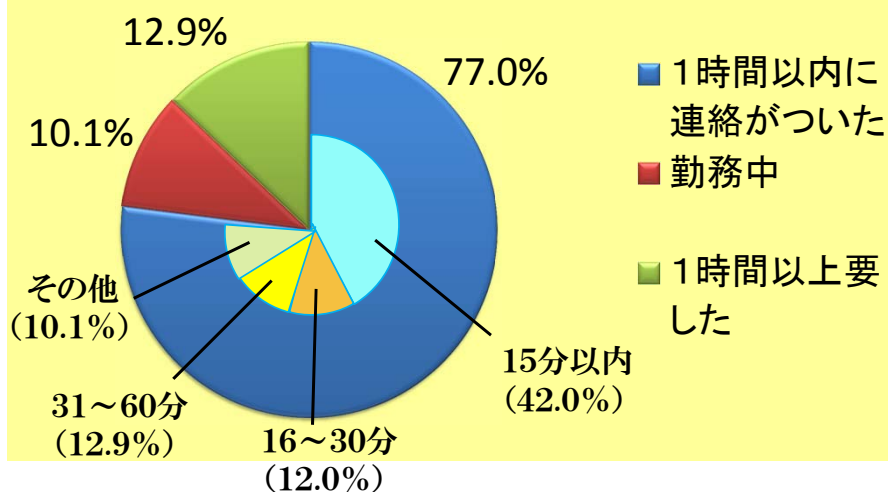
3) 訓練後の評価

全参加者に通信の時間経過等を報告して貰い、問題点を抽出した。



結果① 報告書回収率:98.1%(217人)

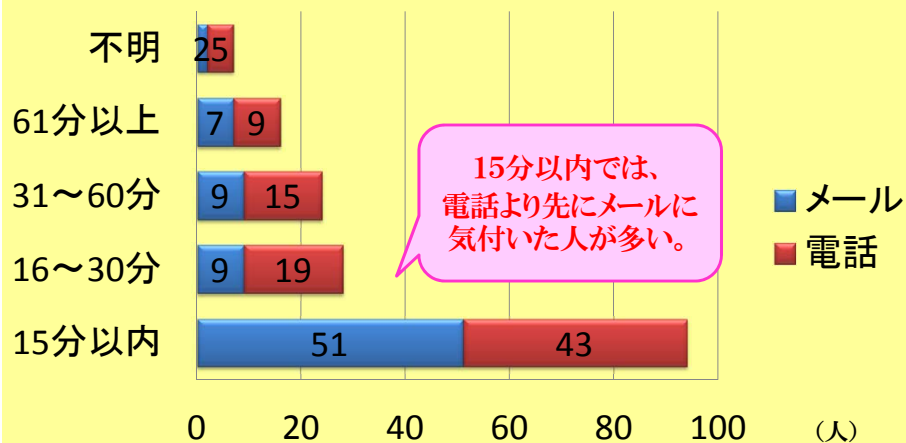
1時間以内に連絡がついたか？



結果②

訓練時点における緊急連絡メール登録者
(訓練対象外の非常勤職員含む)は、
175人であった。

(所要時間) 連絡にかかった時間と連絡方法



考察

- * 電話による緊急連絡網と一斉メールを別経路で運用することで、**77.0%の職員が連絡開始1時間以内に連絡を受けとることができた。**
- * メールを受信した人が一斉に電話をかけようとする、「無駄な話し中の時間」が改善された。
- * 15分以内では、電話連絡よりメール連絡が上回り、**迅速性については一斉メールの有効性を示唆した。**
- * **電話より先にメールを確認した場合は、緊急時の内容を事前に確認できた。**その後の電話対応の短縮や大勢に確実に伝達する手段としてメールは有効である。

結語

- * **3回目の緊急連絡網運用訓練(今回は訓練日時非公開)を行った。**
- * 緊急連絡網と一斉メールを別経路で運用することにより、連絡に要する時間が短縮された。
- * 今後は、メール登録率を高め、多数の職員が早急かつ正確に緊急連絡を受け取れる体制を目指したい。

演題発表に関連し、開示すべき利益相反 関係にある企業などはありません。